

遠洋マグロ延縄漁場調査報告書

上地清吉、当真嗣誠、友利昭之助
久貝一成、新垣盛敬、金城武光

まえがき

沖縄の主要漁業の中で、カツオ漁業は明治34年に創始され、その歴史も古く戦前戦後を通じて永年王座を独占してきた。

マグロ延縄漁業は、それより13年も遅れた大正3年に技術導入されたと云われている。しかしながら本漁業は導入当初からあくまでもカツオ漁業の裏作漁業としての試験開発が進められていたので生産面や従業者、漁船数でもカツオ漁業には遠く及ばなかった。

昭和10年代になって民間のマグロ漁船が増加して来たが、これらの漁船も近海では冬季になるとマグロ、カジキ類の回遊が極端に薄くなることと餌料魚の確保が難かしかったこと等で冬季から春先まで瀬魚一本釣漁業に転業していた。

昭和28年地元の水産会社が150トンクラスのマグロ漁船を導入して本県でも、はじめて遠洋マグロ延縄漁業が営まれ同時に周年操業へ一歩踏み出した。その頃は南方マグロ資源も豊富とあって短期操業で満船するのは容易なことであった。このようにして遠洋マグロ延縄漁業が広く一般に認識されるようになり、昭和30年頃は該漁業の始動期となった。

漁業調査船図南丸は、大型マグロ漁船の導入発展期の昭和35年に建造されたので業界の動きに呼応して漁場調査や技術者養成及び指導等行いながら昭和44年まで延縄漁業試験を16航海操業回数は延193回実施した。結果については調査速報と各年航海別に事業報告書で報告したが、これ等を若干補足整理し、なお別図のように、フィリピン東海、ミクロネシア海域、ハルマヘラ近海、セレベス海、バンダ海の5つの海域に区分してそれぞれ各漁場の実態の比較検討も加え集約のかたちで取りまとめた次第である。

本県マグロ漁業の生産量は昭和43年度をピークに釣獲率の低下と共に漁船数も減少しつつあって伸び悩んでいる事実は否めない。この報告書は調査実績が浅く資料にとぼしい面はあったが、今後本県のマグロ漁業界維持運営に少しでもお役に立てば幸いです。